

唐丹文芸

「ゆはぐさ」詠草

唐丹短歌会

大寒の凍てつく庭に雪あかり添えてゆかしき葉牡丹が華
 腕白のめにもみせて母の愛世界に掛けたもののふの道

磯崎 彬

朝の海ひとり占めして船の上に若布を刈らんと勢う初日
 誕生日をくぎりとなして生き行かんうす紅ひきぬ今日難まつり

上野 ウタ子

温もりの残る座席を詰めながら長なが待ちぬ通院の一日
 とまどいつ横断歩道を小走すれば「あわてないで」と運転者の目

大津 秀子

冬の陽に土手ぬくもりて水仙の芽ぶきさやけし又出逢う春
 蛙の跳ね海鳥遊ぶこの海を深紅に染めて朝日昇り来

川原 セイ

うたたねを目覚めてみればさらさら粉雪音なく満天を覆ういて
 風立ちぬうすまき素吹く粉雪を背負いて通る何處行く人

須具 美佐子

今日よりは院内歩行許されて瓶の桜もほころび初めぬ
 リハビリの膝に小さく痛みあり身内となりし関節いとし

環 あき

せせらぎの春の朝のほほゑみも夫居ぬ今は凍てし想ひに
 雲積み重く波揺るつなぎ船音澄む波止場春歌消ゆ

中嶋 多喜子

「わが死後は花さえあれば」が口癖の姑に手向けむ命日の花
 大きな目さらに大きく見開きてカジキ追ふなりわが弟は

高橋 昌子

梅花講員の募集

私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
 私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
 私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくります。

梅花講の日時

毎月17日 午後1時 盛岩寺本堂にて
 第4日曜日 午後1時 盛岩寺本堂にて

お申し込みは下記へ連絡下さい

55-2167番(長根節子) 55-5174番(盛岩寺)